

夢に挑戦する相産づくりを目指して

○8月4日(水) 相生市人権のつどいが18時から相生市民会館であり、ジャーナリストの大田昭彦氏の講演がありました。主に栃木県足利事件の菅家(すがや)さん冤罪事件を軸にしながらか話があり、太田さんが最後に読まれた投稿者の方の手紙には、多くの方が涙をされていました。

話の内容は26年前に39歳のときに一度、相生市にお邪魔している。26年後、また来ようとしたら91歳になっていると言って笑わせながら、「昨年6月、菅家さんは釈放された。冤罪事件であった。私は客観的証拠からいっても、恩を返したいと言う菅家さんを見ていてもこれは絶対に冤罪だと判断し、ジャーナリスト生命をかけて公言した。「恩を返したい」というのは菅谷さんが冤罪で捉えられたとき、ある刑務官が、字が読めず書けない菅家さんに辞書の差し入れをしてくれた人に対してであった。その方はある刑務所の総務部長になられていた。少女誘拐・殺害・死体遺棄で菅家さんが逮捕されたとき、我々マスコミの先輩が新聞に“DNA判定=科学捜査の勝利”と書きたてた。私は後輩であるがその誤りを正した。私たち支援者は様々な工夫をしてやっとここまでこぎつけた。ところがこの件で誤った裁判をした裁判官は誰一人罪に問われず、誰一人も謝りはしていない。17年間の菅谷さんの人生をなんと考えているのだろう。人間誰も誤りはある。であるならば、その誤りがわかった時点で正すべきだ。これが今の日本である。菅家さんは釈放されて16時間後に、私が出ているスーパーモーニングに出演してくれた。その開口一番が“ありがとうございます(御世話になりました)”だった。刑務所の中でテレビを見て、私の発言を知っていた。」「現在、アメリカがGNP第1位である。ところが貧困率も第1位である。日本はGNP第2位である。貧困率も第2位である。日本の満足度は世界第19位である。戦後、日本は気が優しく力持ちの国を作った。今は、気が優しくなく力持ちでない国になった。格差社会がどんどん広がっている。格差がある限り、差別がある限り、戦争はなくなるならない。」等々。

大田氏は2003年に起きた鹿児島志布志選挙違反「でっちあげ事件」の話も冤罪事件との違いに触れながら、詳しく話をされました。私の関係するところでも大阪で「でっちあげ事件」が起き、長年の



裁判闘争の結果無罪判決を勝ち取った例があります。でっちあげ事件の構図は、今もまったく変わっていないと、強く感懐く古村教授; 3次元映像> じました。

○8月5日(木)・6日(金) 全国情報教育研究会が神戸でありました。総会・15校教員の実践発表・記念講演・講話等盛りだくさんの内容を、「クオリティホテル神戸」16階

でパワーポイントの関係でカーテンを閉めたまま実施しました（休憩時間はカーテンを開けましたが）。講演は「次世代パソコンで挑む、地震の強い揺れの予測と災害軽減」と題して東京大学教授；古村孝志教授が、3次元動画を駆使して説明されました。終了後、ほとんどの参加者がその3次元映像の鮮やかさに驚嘆の声を上げていました。

また、講話は「これからの工業教育のあり方」と題して文部科学省教科調査官；池守滋氏が①新学習指導要領ですでに小・中学校で「情報」を実施している。工業高校でそのことを知った上で、ハイレベルの内容の授業をやっているのか。②国際化というのが高校・大学から直接、海外の就職を斡旋しているのか。③新学習指導要領で言語活動の充実が叫ばれているが、工業高校でもものづくりだけになっていないのか。④工業高校卒業の生徒は、地域の産業の担い手であると同時に、地域の文化の担い手になっているのか。⑤ぜひ行きたいと言われる憧れの工業高校になっているのか、等の考えさせる話がありました。



のか。③新学習指導要領で言語活動の充実が叫ばれているが、工業高校でもものづくりだけになっていないのか。④工業高校卒業の生徒は、地域の産業の担い手であると同時に、地域の文化の担い手になっているのか。⑤ぜひ行きたいと言われる憧れの工業高校になっているのか、等の考えさせる話がありました。

<神戸の街並み；クオリティホテル神戸より>

【私が少年創作童話を書きました。NO. 036～037に分割して連載します。】

『少年・勇（ゆう）の挑戦～惑星ケンタウルスを救え』NO 2

ナータンは勇の方に顔を向けてから、静かに立ち上がった。

「よく来て下さった。」

その長い髪に隠れた老いたナータンの顔は威厳に満ちていた。声は白馬がいなくなかのように、力強かった。

「ヒカリから話を少しは聞いたと思うが、どの惑星の人々も、今では国が乱れ、息子や仲間が死んでいくのに絶えきれず、わしの話に耳を傾けるようになった。そして、セネガ銀河星雲すべての十三惑星間で戦争放棄協定が成立し、今は全く戦争のない時代になったのじゃ。」

ナータンは一息ついた。

「じゃが・・・」

「ナータンさん、このセネガ銀河星雲が爆発するって本当？」

勇は急いで尋ねた。

「だからこそ、勇に来てもらったのじゃ。」

「僕に一体何ができるというのですか。」

「相手を思いやる心の強い勇のような地球人しか、この惑星を救うことができないのじゃ。」

突然、床がゆれだした。勇もナータンも床に投げ出された。ヒカリは宙に浮いた。

「この状態を救えるのは地球の子・勇の強いつよい相手を思う一念、つまり”祈りの力”だけなんじゃよ。我々惑星人の力では残念ながら重力の関係でできないのじゃ。」

また、揺れが大きくやって来た。

「どうやって救うことができるの？」

「さあ、宇宙船に乗ってみよう。そして、まず、この宇宙がどうなっているか自分の目で確かめるとじゃ。」

ナータンは直ぐ家の外に出た。そして、家のそばに止めてあった小型宇宙船に勇とヒカリを乗せると急発進した。

勇は天空から第四惑星ケンタウルスを見て驚いた。ケンタウルスの表面の一部がはがれて、宙に浮かび、はがれた破片どうしが衝突してまた、その破片がケンタウルスを直撃していた。

「ああ、戦争を終わるのが遅かった。」

ナータンはため息をついた。

「僕は一体どうしたらいいの。このままだったら、ヒカリやナータンさんの惑星が壊れてしまう。」

ヒカリが祈るように言った。

「勇。それを救えるのは勇よ。それはあなたの中にある、私たちを救おうとする強い”祈りの力”によってしかできないのよ。」

「でも、どうやって祈ればいいのか？」

「今、目の前にいるわしとヒカリを通して全惑星の無事を祈るのじゃ。」

勇は必死だった。

「どうやって。」

「それは勇。自分の本当の力を信じるしかない。自分の中に眠る本当の可能性の力を信じるのじゃ。」

「僕には、惑星を救うことなんかできない。」

「地球の子・勇よ。自分の臆病な心、決めつけてしまっている心を取り除いて、純粹に相手を思う気持ちだけになりきるんじゃ。」

「お願い。勇。もう時間がないわ。」

その時、宇宙船を運転するナータンや勇のそばに座っているヒカリの姿が、だんだん薄くなっていった。

「ヒカリ。なぜか、君の姿が薄く見えだしてきたよ。」

勇は目をこすりながら、そう言った。

ヒカリは悲しそうに答えた。

「そうよ。私たちは存在が消えかかる時、その姿が薄くなってしまふのよ。」

「セネガ銀河星雲が爆発する時が早まってきているようじゃ。勇。お願いじゃ。さあ早く。全ての惑星の幸いを・・・」

勇は今まで自分の病気が良くなるようにとか、ゲームボーイを買ってもらうようにとか祈ったことはあったが、人のこと、まして、もっと大きく、人々を救うということを祈ったことがなかった。兄弟のない勇は、なおさら他人の幸せのために祈ることを考えたことがなかった。しかし、目の前のナータンやヒカリの姿が薄くなり、消えて無くなるろうとしているのを見た時、これ以上、我慢ができなかった。

勇は心の底から叫んだ。

「惑星軸よ。元に戻れ。セネガ銀河星雲よ。静まれ。治まれ。全ての人々の幸せのために。」

その瞬間、勇が乗っていた宇宙船が光を放った。そして、その光の隙間から、ケンタウルスの表面が元に戻っていくのが見えた。光の輪は勇だけを包み込み、光の繭に乗った勇だけが、宇宙に放り出された。勇は仰向きのまま宇宙を流されながら、安らかな、幸せな気分になっていた。何か、夢の中にいるような気分だった。

「チチ、チチ。」

勇の耳元に小鳥の声が聞こえてきた。目の中にほのかな明かりを感じた。眠い目をこすって起きあがった。部屋が朝の光で包まれて、光っていた。勇は自分が普段着のまま、ベッドの上に寝ているのに気がついた。体にはタオルジャケットがかけてあった。

ふと窓の外を見た勇は、昨日のことが夢の中のことか、本当にあったことなのか分からなかった。でも、心の中は晴れ晴れとしていた。心が安定したセネガ銀河星雲の宇宙のように、大きく広がっただけでなく、自分の中に自信と勇気の泉がわき出たように感じた。

窓の外には真夏の午前8時の太陽が輝いていた。